

和歌山県特定複合観光施設 区域整備計画（案）のポイント

2022（令和4）年2月

日本のIR（統合型リゾート）

- カジノ施設に加え、ホテルやMICE施設(国際会議場・展示施設)等、様々な施設が一体となった複合観光施設
- カジノ行為区画はIR施設の床面積の合計の**3%以下**
- すべての施設は**民間事業者により建設・運営**される
- 3カ所を上限**として、国土交通省が区域を認定する

シンガポールにおけるIR①

マリーナ・ベイ・サンズ



シンガポールにおけるIR②

リゾート・ワールド・セントーサ

ユニバーサルスタジオ

コンベンションセンター

ホテル

カジノ

海洋歴史博物館・水族館

(※) 本写真の著作権はゲンティン・シンガポール・リミテッドに帰属します



リー・シェンロン首相演説

2005年4月、マリーナ・ベイ地区及びセントーサ地区にカジノを含むIRを誘致することを表明

「Not a Casino, but an **IR**」

- カジノの導入について検討しているのではなく、IR、統合型リゾートの導入について検討している。
- IRは、レジャーやエンターテインメント、ビジネスの場。
- IRは毎年大勢の人々を魅了しており、その大多数はギャンブルをするためにIRに来ているのではない。リゾートを楽しむ旅行者であり、展示会や会議に参加する経営者やビジネスマンたち。
- 小規模ではあるが重要な施設として、ゲーミングを提供する場が設けられており、プロジェクト全体の経済的継続性を支えている。

IR予定区域・和歌山マリーナシティ



1. IR区域全体

IR区域全体のコンセプト ①

IR施設の名称、所在地

IR施設の名称

IR 和歌山（仮称）

所在地

和歌山マリーナシティ

和歌山マリーナシティの優位性

○ **すぐに着工が可能**

- ・ 全域整地造成済であるためすぐに着工でき、日本で最初のIRの開業が可能

○ **風光明媚な和歌浦湾に位置**

- ・ 日本遺産に認定された「絶景の宝庫 和歌の浦」

○ **マリンスポーツ・マリンレジャーの聖地**

- ・ セーリング ナショナルトレーニングセンターがあり、世界大会も開催される日本屈指のスポット

○ **関西国際空港に近接**

- ・ 関西国際空港から最寄り I C まで車で約30分

○ **京阪神に近接**

- ・ 大阪から60分、京都・神戸から約90分以内と抜群のロケーション

IR区域全体のコンセプト ②

区域整備計画の意義

和歌山県は、世界中から観光客を集められる 新たな観光経済圏としてのポテンシャルを有する地

- 都市部では味わうことが出来ない四季折々の魅力をもつ観光資源
 - ・世界遺産「高野山・熊野」
 - ・日本三古湯「白浜温泉」をはじめとする温泉資源
 - ・日本三大火祭りの1つ「那智の扇祭り」などの伝統行事
 - ・醤油・味噌・鯉節発祥地としての食文化 など
- 訪日外国人旅行者の玄関口である
関西国際空港へのアクセスが充実



これらの和歌山県が誇る魅力・ポテンシャルを十分に発揮し、日本初のIRを整備

地域経済の振興や地方創生をリードし、我が国がめざす観光戦略及び国際競争力の高い魅力ある滞在型観光の早期実現をめざす

1. IR区域全体

IR区域全体のコンセプト ③

区域整備計画の目標

目標 1

MICE
戦略

地方型MICEのベストプラクティスを作り上げ、日本各地域に横展開可能とすることで、地方創生・地方都市の魅力向上に繋げる

- 従来型とは一線を画す世界最先端のスマートMICE施設を整備することにより、リゾート型IRならではのワークライフバランスに富んだ体験を提供し、我が国のMICE開催地としてのプレゼンス向上に寄与

目標 2

世界中から
集客する

外国人旅行者数・消費額という「量」の貢献はもちろん、顧客満足度を高め日本のファンを生み出すことで来訪の好循環を作り出し、真なる我が国の観光戦略に寄与

- 和歌山の多種多様な観光資源を存分に生かした体験を通じて、日本の魅力をより広く・深く発信し、三大都市圏以外にも世界中から観光客が集まる地域を新たに生み出す

目標 3

日本各地へ
送客する

新たな観光街道を形成することで、IR整備の効果を広域的に波及させる

- IRでの「体験」から、IR施設外での新たな「体験」へ動機付けを行うことで、IR来訪者を日本各地に送り出し、これまで認知が遅れていた魅力あふれる地方部と世界をつなぐ観光ゲートウェイを形成する

IR区域全体のコンセプト ④

IR区域全体のコンセプト

〈テーマ〉

「和歌山の自然資源」と「世界最先端のテクノロジー」の融合

• コンセプト① Sports & Wellness

滞在体験を通じて心身ともにエネルギーをチャージし、より自分が好きになるウェルビーイング観光を推進するIR

• コンセプト② Undiscovered Japan

世界にまだ知られていない日本の魅力を広めて新たな観光街道を創り、地方創生を推進するIR

• コンセプト③ Sustainability

最先端技術を活用した利便性と循環型社会への貢献の両立を叶え、地域・人とともに持続的な成長を続けるIR

1. IR区域全体

IR区域内の建築物のデザイン、IR施設の規模

IR開業 2027年 秋頃

施設の種類	暫定計画値	収容人数
国際会議場施設	68,700 m ²	24,500人
展示等施設	67,500 m ²	12,230人
魅力増進施設	10,500 m ²	1,750人
送客施設	1,800 m ²	1,800人
宿泊施設	312,000 m ²	12,250人
来訪及び滞在促進施設	190,000 m ²	3,000人
カジノ施設	46,500 m ²	9,680人
合計	697,000 m²	65,210人

1. IR区域全体

IR区域内の建築物のデザイン、IR施設の規模

IR区域の建築物の外観

今後の計画進捗に伴い変更する可能性があります

施設全景



PRELIMINARY DESIGN RENDERINGS ARE SUBJECT TO CHANGE

Steelman Partners

建築デザインコンセプトを「和歌浦にそびえ立つ現代の鳥居」と設定

この地に集う来訪者が、ここからいまだ世界に知られていない日本の魅力を感じ、新たな観光街道を巡る、いわばそのゲート性を表現

1. IR区域全体

IR区域内の建築物のデザイン、IR施設の規模

IR区域の建築物の外観

施設全景



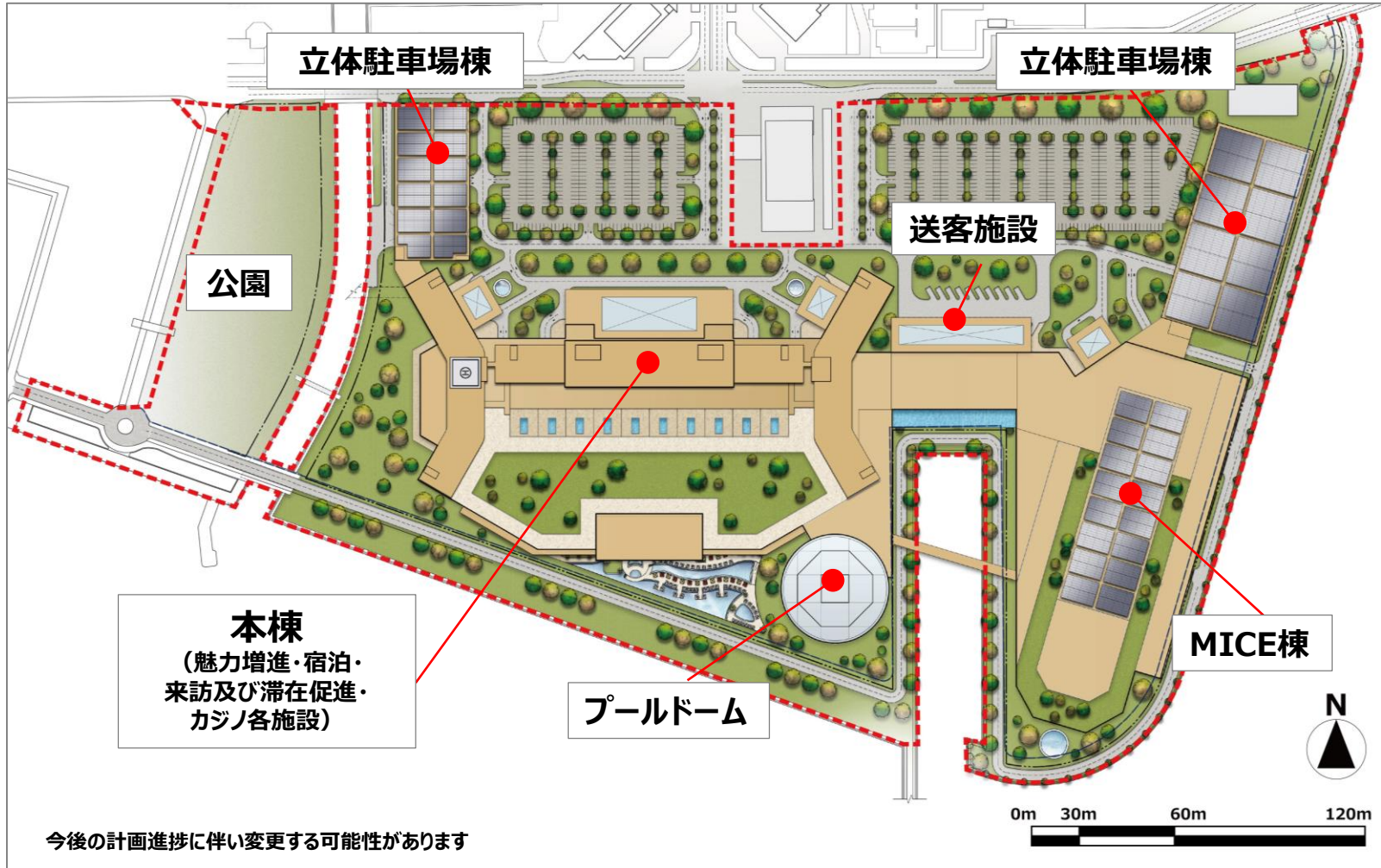
PRELIMINARY DESIGN RENDERINGS ARE SUBJECT TO CHANGE
Steelman Partners

今後の計画進捗に伴い変更する可能性があります

1. IR区域全体

IR区域内の建築物のデザイン、IR施設の規模

全体配置図



2. IRを構成する施設

国際会議場施設及び展示等施設

国際会議場施設

- 最大収容6,000人以上の大会議場と合計6,000人以上収容の中小会議室で構成
- 世界トップクラスの会合について余裕を持って開催することができる国内随一のキャパシティ
- 会議場と展示場を一体利用できる国内初となるエクステンション型アリーナとして設計

展示等施設

- エクステンション型アリーナの機能を有する約2万 m^2 の展示場
- 2つのフロア（それぞれ約12,000 m^2 ）に渡って配置され、複数のMICEの同時開催が可能
- 国内開催におけるボリュームゾーンである1万 m^2 台の中規模の展示会にも余裕をもって対応可能なキャパシティ



今後の計画進捗に伴い変更する可能性があります

2. IRを構成する施設

魅力増進施設

施設の種類と概要

テーマ「自然との共生」「人との共生」「歴史・伝統との共生」

人・歴史・伝統の礎である自然の恵みを起点に、美しい、楽しい、美味しい、健やかな、学びのあるモノ、コト、トキを提供し、感動体験を生み出す



機能	施設概要
日本の伝統文化に資する施設	<ul style="list-style-type: none"> 外国人にとっては非日常、未体験の日本文化の根源の1つである祭事（縁日）を模した区画 食を味わうことを通して和歌山、そして日本の伝統を体験してもらう区画 食を味わうだけでなく、和食に欠かせない食材や調味料などを来場者自らが作る体験ができる区画
日本の精神性を訴求する施設	<ul style="list-style-type: none"> 高野山や熊野古道とも関連する日本の精神性を凝縮した文化体験ができる施設
温浴体験施設	<ul style="list-style-type: none"> 多様な文化背景をもつ外国人も最高の和の温浴体験ができる施設

2. IRを構成する施設

送客施設

施設の種類と概要

機能	種類（規模/収容人員）	施設概要
ショーケース機能 （多言語対応）	エキシビジョンギャラリー （450㎡/450人）	・VR技術、3D技術などの最先端テクノロジーを活用し、観光地の魅力を発信
コンシェルジュ機能 （多言語対応）	ツアーデスク （300㎡/300人）	・利用者のニーズに応じたツアーの計画などの提案、各種サービス手配を一元的かつシームレスに実施
交通機能	バスターミナル （1,050㎡/1,050人）	・交通拠点からIR施設への効率的なアクセスを可能とするルートを整備するためのバスターミナル

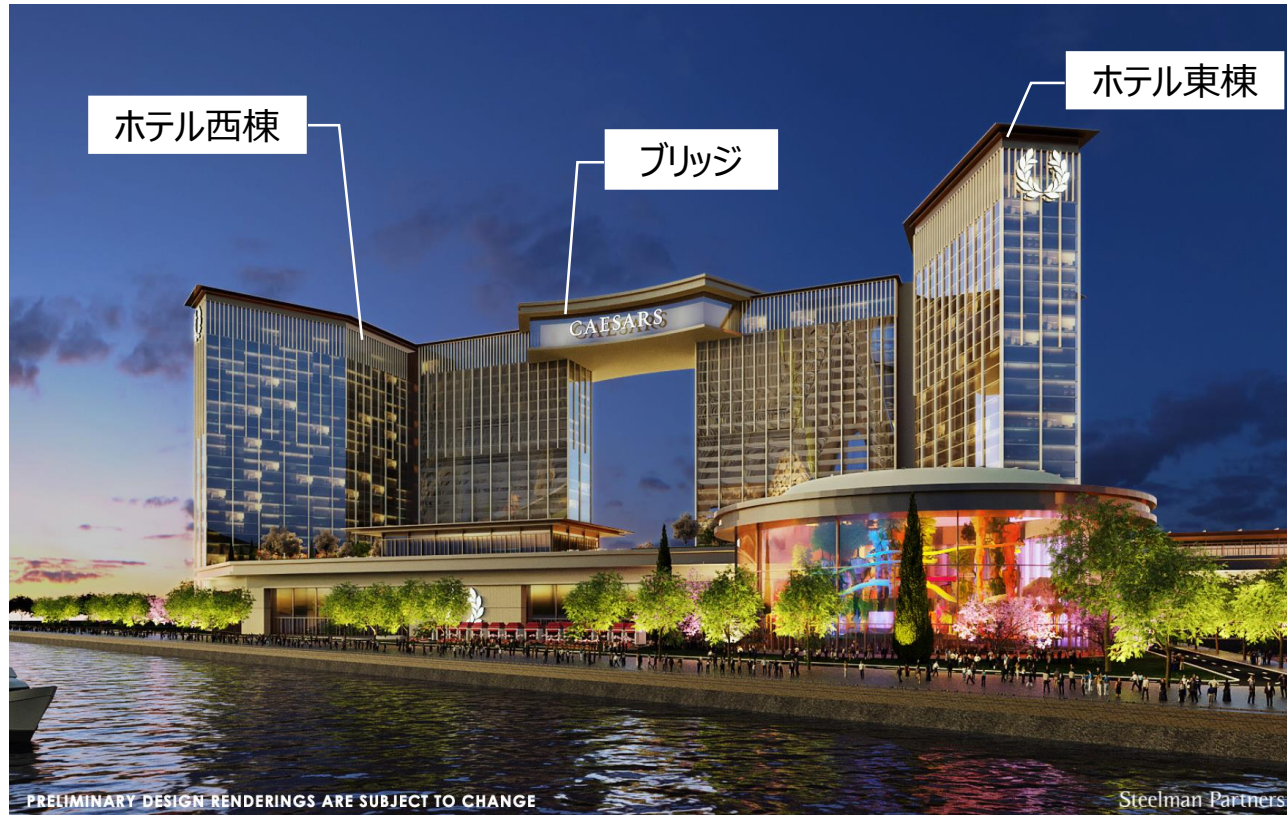
送客先の考え方

- 関西圏のみならず日本全国を対象とし、地方部へも積極的に送客することで、政府が掲げる目標の達成にも貢献
- 特に、歴史的な繋がりが深い伊勢湾、紀伊半島、四国圏の観光資源を巡礼や食文化などストーリー性のあるテーマでつなぎ、新たな観光街道を形成

2. IRを構成する施設

宿泊施設

施設の概要



今後の計画進捗に伴い変更する可能性があります

- ホテルブランドは「シーザーズ・パレス」
- 総客室数は2,500室以上、うち、スイートルームは約24%を占める
- ビジネス向けからファミリー層まで多様な来場者層を想定した客室構成
- オーシャンフロントの特性を生かした客室配置を行い、特に、上層階にラグジュアリーなスイートルームを配置することで富裕層のニーズも充足し、和歌山IR全体のブランド価値向上に貢献

2. IRを構成する施設

その他観光旅客の来訪及び滞在の促進に寄与する施設

施設の種類と概要

ありとあらゆる人々が楽しめる「ボードレスな娯楽空間」をテーマとした施設を設置

種類	概要
プールドーム	ドーム型で全天候営業が可能な人工ビーチを含むプール施設
eスポーツセンター	eスポーツプレイヤーにとってのトレーニング施設兼用のゲーミング施設
超人競技センター	身体機能の拡張を行った上でのスポーツ（超人競技）のゲーミング施設
ナイトクラブ	アフターMICE利用や、若者のナイトエンターテインメントとしての利用を目的としたナイトラウンジ・クラブ施設
スポーツ施設	フィットネスを含むスポーツ設備や、各種スポーツアクティビティなどが行える施設
先端医療センター	先端再生医療技術による未病、予防、美容をテーマに、健康寿命を伸ばすことに主眼をおいた医療施設
屋上農園	近代的手法も活用して、全ての季節を通してその時々々の旬の野菜・果実等を収穫できるよう栽培する農園
キッズ広場	世界各国の子供たちが一緒になって参画する知育プログラムを展開する施設

2. IRを構成する施設

カジノ施設

施設の概要



画像はイメージです

カジノ施設のエリア

マスゲーミング・エリア（1階）

プレミアムゲーミング・エリア（1階）

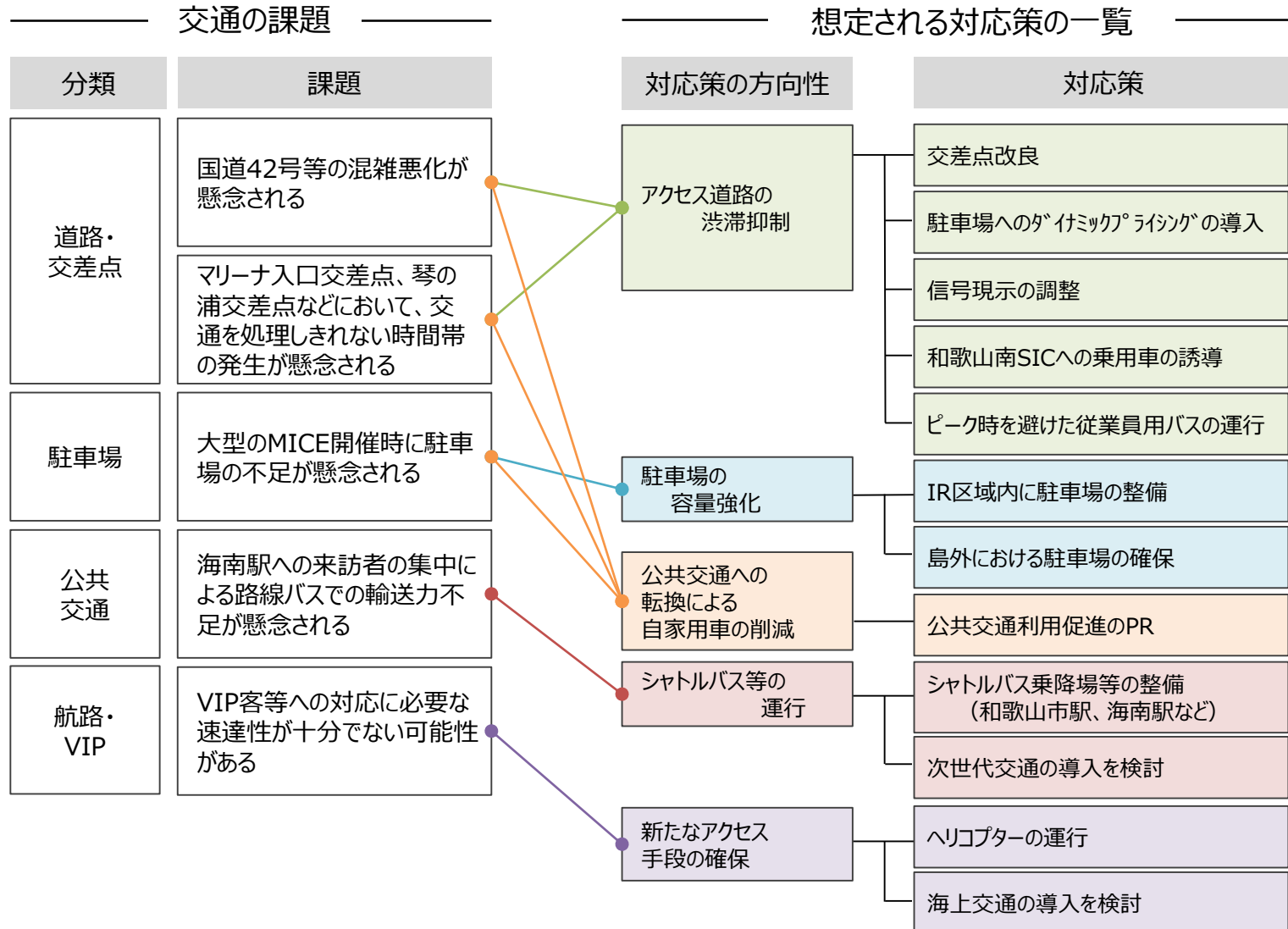
VIPゲーミング・エリア
（1階メザニン、24、25階）※施設全体の床面積に対するゲーミング
区域が占める割合は2.8%となる

- カジノ施設周辺の動線については、カジノ利用がIR訪問目的でない顧客や未成年に十分に配慮
- ホテルやMICE施設、送客施設等はそれぞれ専用のエントランスやロビーが設けられており、他の中核施設へのアクセスにカジノ施設の入場口付近を通過する必要がないよう、顧客動線を工夫

3. IR区域が整備される地域及び関連する施策等

交通環境の改善

対応策一覧



3. IR区域が整備される地域及び関連する施策等

滞在型観光の実現

MICE誘致の推進

和歌山MICEならではの価値を創出し日本の産業力強化・プレゼンス向上に寄与

- 誘致プロモーション（ロビー活動・商談会への出展等）
- MICEイベント応じた関連プログラムなどの企画提案及び開催助成
- ユニークベニューの開発などMICE受け入れ環境整備 など

観光誘客の推進

和歌山IRの誘客効果を地域経済の振興につなげIRの整備効果を最大化

- 和歌山県内全域で魅力ある観光地づくりやインバウンド対応の推進
- 和歌山下津港本港区への大型旅客船ターミナルの整備
- 世界遺産や指定文化財の保全・活用に係る支援強化
- 地域交通や宿泊事業者と連携した紀伊半島周遊MaaSの構築
- 和歌山IRを起点とした和歌山県内周遊バスネットワークの構築・運営支援
- 国内外プロモーション（商談会への出展、メディア活用等）
- 旅行者に係るビッグデータの収集・分析基盤（和歌山版DMP）の構築、運営 など

4. 経済的社会的効果

経済的社会的効果

観光への効果

IRが開業すると、MICEの開催などにより多くの来訪者が想定される。特に訪日外国人旅行者は、大幅な増加が見込まれる

想定目標指標（2030年度）	
各施設への総来場者数	約1,300万人
IR区域への来訪者数	約650万人
うち日本人	約540万人
うち外国人	約110万人
送客施設を活用した旅行者数	約12万人

地域経済への効果

観光分野は波及効果の裾野が広いといわれており、IRの立地により、県内総生産を約1割に相当する大きな経済波及効果を生み出す

想定目標指標	
IR施設に対する投資の金額	約4,700億円
経済波及効果（建設時）	約7,100億円
経済波及効果（運営時）	約3,100億円
IR区域への来訪者による旅行消費額（2030年度）	約2,300億円
IR施設において雇用する従業員数（2030年度）	約6,200人

経済波及効果、雇用創出効果



農林水産業



飲食サービス



廃棄物処理



建設補修



飲食料品等



商業



警備・清掃等



機械修理等



医療・福祉

経済波及効果

IR

雇用創出効果



洗濯・理容・美容等



電力・ガス・熱供給



情報通信等



宿泊業



駐車場・会議場・
アリーナ施設等



金融・保険



不動産



鉄道・バス・タクシー・
運輸・旅行業等



娯楽サービス

5. IR事業運営の能力・体制

事業実施体制 / 財務の安定性

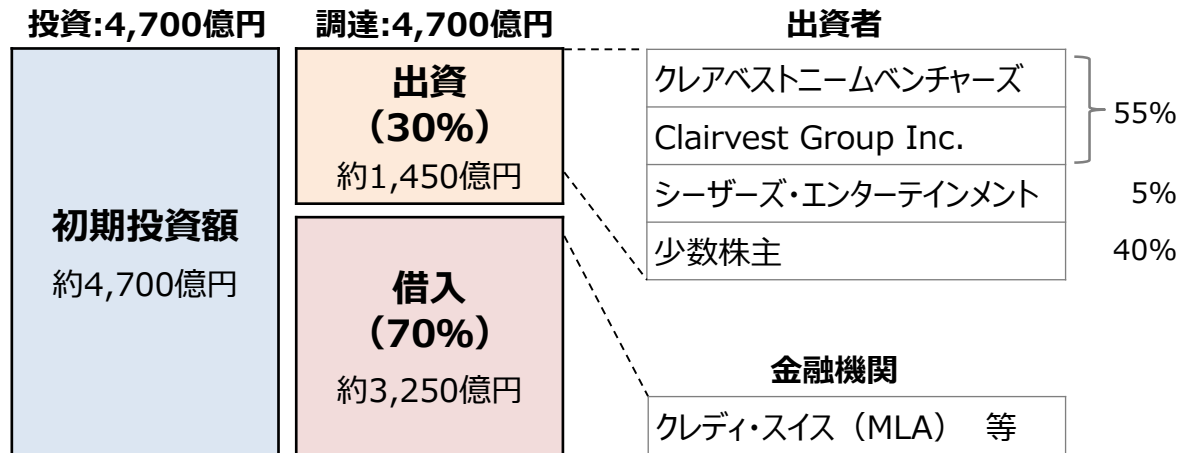
IR事業者の概要

名称	和歌山IR株式会社（設立準備中）
構成員	<p>◆中核株主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレアベストニームベンチャーズ株式会社(CNV) ・Clairvest Group Inc. ・シーザーズ・エンターテインメント など

収支計画の概要

収益	<p>開業2年目（2028年度）において、 総収益：約2,200億円 以降、収益利益ともに安定的な成長を見込む</p>
----	--

資金計画の概要



- * Clairvest Group Inc.及びシーザーズ・エンターテインメントについては、これらの子会社を介した出資となる可能性もある。
- * 今後、計画最終調整に向けて、数値や比率等が変動する可能性がある。

防災及び減災のための取組等

行政（和歌山県・和歌山市など）と連携し、様々なリスク事象に対応

想定される主なリスク事象：

「地震・津波・豪雨対策」「感染症対策」「サイバーセキュリティ対策」「テロ対策」

地震・津波・豪雨対策

和歌山県・市地域防災計画等に基づき、
IR事業者と行政等と連携して平時・発災時の対応を実施

<事業者の主なハード対策>

- IR施設の耐震性能・耐津波性能の確保
- 在館者や周辺住民の安全な階上避難動線の確保
- 各施設への防災備蓄倉庫・非常用発電機の設置

<事業者の主なソフト対策>

- 想定リスク事象に対応した災害時行動計画・事業継続計画（BCP）等を定め、実効性を高めるべく教育・訓練を実施

6. カジノ事業の収益の活用

カジノ事業の収益の活用

基本的な考え方

- 観光事業における国際競争力の向上の観点から、全世界から観光客を集客
- IR事業の核となる公益性の考え方の観点から、IR区域外への再投資も含む投資を行い、地域全体の持続的な発展に寄与

＜主な活用内容＞

- 施設の保守メンテナンス等の修繕に要する費用
- 各施設の価値を高めるための設備投資に要する費用
- 各施設の価値を高めるための投資（コンテンツ充実等）に要する費用
- 主にIR区域内を対象とした、カジノ設置及び運営に伴う有害な影響の排除等に伴う対策のための費用
- 和歌山県が実施する区域整備計画に関する施策に対して、IR事業者が積極的に支援し、持続的な地域発展に寄与することを目的とした投資に要する費用

7. カジノ施設の設置及び運営に伴う有害な影響の排除

ギャンブル等依存症対策 ①

依存症対策（IR事業者による主な対策）

<入場管理、利用制限>

- 本人又は家族等の申請に基づき、依存症治療者等には入場規制等の利用制限措置を実施
- 法令に基づく厳格な入場制限（入場回数の制限、入場料徴収）を実施※
- 入場時にマイナンバーカードの提示及び入場後のIRカードの作成を義務付け※

IRカードの主な機能

- ・ 上限設定機能（プレコミットメント設定機能）
- ・ 利用者の滞在時間、プレイ時間、使用金額等の利用状況の一元管理
- ・ ICT技術を活用した依存症傾向にある利用者の行動パターンの特定、異常行動者の発見

※日本人や外国人居住者が対象

<資金アクセス制限>

- チップ交付のためのクレジットカードの利用禁止※
- カジノ施設内のATM等の設置禁止

<体制整備>

- 24時間対応の依存症相談窓口（相談室）を、カジノフロア内外に設置
- 依存症対策専門員を整備
- 依存防止規程の策定、遵守の徹底

<情報提供>

- カジノ施設内に依存症への注意喚起、啓発広告、相談室の連絡先等を掲示
- 無料セミナーやパンフレット、インターネット等を通じたリスク等の周知

7. カジノ施設の設置及び運営に伴う有害な影響の排除

ギャンブル等依存症対策 ②

カジノ以外の既存のギャンブル等に起因する依存症リスクが存在する限り、IR区域内の対策だけでは不十分であり、地域全体でリスクの軽減が必要



区域認定を機に、関係機関の連携にIR事業者が加わり、「和歌山県ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づく取組などの依存症対策を包括的に推進

依存症対策（行政・関係団体等による対策）

<主な対策>

- ギャンブル等依存症に関係する機関が連携した包括的な連携協力体制の構築
- Webサイトやリーフレットの活用等の活用による依存症の正しい知識の普及啓発
- ギャンブル等可能年齢になる以前の低年齢層から、発達段階に応じた依存症予防教育を実施
- 和歌山県内10か所に相談窓口を設置（和歌山県精神保健福祉センター、各保健所）
- 和歌山県立こころの医療センターを中心に、2027年までに和歌山・紀北・紀中・紀南の4地域に専門医療機関を開設
- 和歌山県立医科大学との連携による依存症研究
- 自助グループ(当事者会や家族会)を支援

区域認定後、県民を対象にギャンブル等依存症の実態調査を実施

初回実測値から悪化させず、計画最終年度に改善した数値とすることを目標とする

7. カジノ施設の設置及び運営に伴う有害な影響の排除

治安対策 ①

カジノ施設、IR区域内の監視・警備

<主な対策>

- 防犯カメラの設置（人の動線や滞留が起きやすい場所に重点設置）
- AI等を活用した画像自動検知・犯罪予測システム付き防犯カメラの設置
- 機械警備システムや警備ロボット、警備ドローンの活用
- 総合セキュリティセンター設置による、警備体制の強化

犯罪の発生対策など（IR事業者による対策）

<主な対策（IR区域）>

- IR区域内への警察官詰所の設置
- 大規模イベント時の警察指揮所のスペース確保
- 地域住民からの要望や苦情を受け付ける専用窓口の設置

<主な対策（カジノ施設）>

- マイナンバーカード等による本人確認の徹底による暴力団等の排除
- IRカードを活用したマネー・ローンダリング対策の実施

7. カジノ施設の設置及び運営に伴う有害な影響の排除

治安対策 ②

IRの来訪者により、周辺地域には人や車が集中することに加え、和歌山県内全域的に観光客が増加することで、警察事象の増加も想定



関係機関が連携して人員や設備を増強するとともに治安対策を強化

犯罪の発生対策など（行政・警察等による対策）

<主な対策>

- 警察官の増員
- IR区域が位置する毛見地区への交番新設
- IR区域周辺地域への防犯カメラの新設
- 防犯カメラのネットワーク化やAI技術を組み込んだ映像解析システムの構築

- 「暴力団等排除協議会(仮称)※」を設置し、暴力団を徹底して排除

※構成員：和歌山県警察・IR事業者・
和歌山県暴力追放県民センター

- 地域住民の意見・要望把握などのための「IR周辺地域連絡協議会(仮称)※」設置

※構成員：和歌山県警察・IR事業者・
自治体・地域住民等

入場料納入金・納付金の見込み額及び使途

入場料・納付金の見込額

開業2年目となる2028（令和10）年度において、

入場料 約**50**億円/年、**納付金** 約**260**億円/年の納入を想定

入場料・納付金の使途

入場料：懸念される事項への対策により地域の不安を払拭し、IRが地域と共存するための施策に活用

<主な施策>

- IR区域の整備の推進（IR周辺の交通環境の充実 など）
- 有害な影響の排除（防犯体制の強化、ギャンブル等依存症対策の推進 など）
- 不測の事態への備え

納付金：IRの効果を最大限に生かすとともに、地域が将来にわたって発展するための施策に活用
（和歌山市に25%を配分）

<主な施策>

- IRを生かした観光産業の充実（MICE誘致や観光誘客の推進 など）
- 子育て、教育環境の充実（教育に係る経済的負担の抜本的軽減 など）
- 経済と環境の両立の実現（環境に配慮した取組の充実 など）
- 文化芸術の振興（文化資源の保存継承）

県民意見の募集（パブリックコメント）

意見の募集期間

- 令和4年3月10日まで

資料の閲覧

- IR推進室ホームページ
- IR推進室（県庁本館4階）
- 情報公開コーナー（県庁本館2階）
- 県内各振興局地域振興部企画産業課

意見の提出方法

- 電子メール e0201001@pref.wakayama.lg.jp
- 郵送 640-8585（住所の記載不要） IR推進室あて
- FAX 073-422-1812